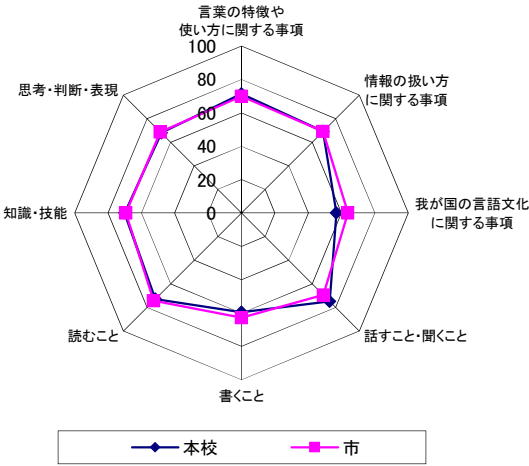


宇都宮市立城東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.3	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	69.2	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	56.9	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	74.9	69.5	71.5
	書くこと	59.5	62.8	67.1
	読むこと	73.1	74.4	73.7
観点別	知識・技能	70.0	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.0	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

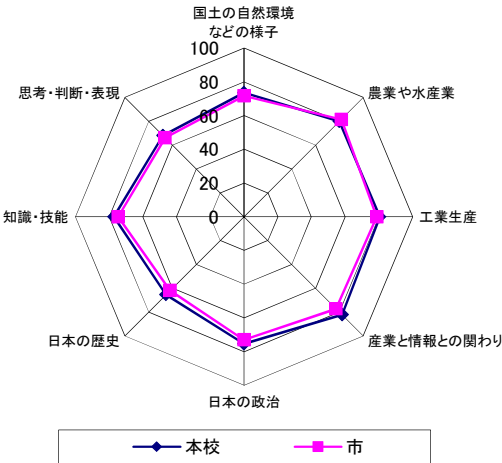
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は71.3%で、市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ○三字の熟語の成り立ちについて答える問題については、平均正答率は73.8%で、市の平均正答率を6.4ポイント上回っている。 ●漢字の読み書きについては、市の平均正答率を下回っているものがある。	・漢字スキル等を利用して漢字の読み書きの定着を図る。 ・日常の学校生活において、敬語を意識して使うことを呼び掛け、習慣づけていく。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は69.2%で市の平均正答率と同等である。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題については、平均正答率は58.5%で、市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題については、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。	・この問題では、いくつかの情報が示され、その情報をもとに文章を書く力が求められている。今後は国語の学習の中で、いくつかの条件をもとに文章を書く学習に力を入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は56.9%で、市の平均正答率を6.9ポイント下回っている。 ●漢字の由来についての問題で、無回答の児童が10.8%であった。	・新出漢字を学習する際に、読み書きだけでなく漢字の由来や成り立ちについても指導し、知識を深めていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は74.9%で、市の平均正答率を5.4ポイント上回っている。 ○意図に応じて、質問を工夫する問題については、平均正答率は78.5%で、市の平均正答率を12.3ポイント上回っている。 ●話の内容を捉える問題については、平均正答率は75.4%で、市の平均正答率を0.8ポイント下回った。	・話の要点を意識しながら聞く力を高めるために、話の流れや中心となる事柄をメモに取ったり、自分なりの考えをまとめたりする活動に取り組ませていく。
書くこと	●平均正答率は59.5%で、市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題については、平均正答率は58.5%で、市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。 ●指定された長さで文章を書く問題については、平均正答率は58.5%で、市の平均正答率を9.7ポイント下回った。	・自分の意見を書くときには、自分の体験やデータなどの根拠を示すなど、説得力のある文章を書くよう指導していく。 ・多くの情報を読み取って文章を書く場合には、情報を取捨選択して整理し、目的に応じた文章を書けるよう指導していく。
読むこと	●平均正答率は73.1%で、市の平均正答率を1.3ポイント下回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、平均正答率は70.8%で、市の平均正答率を5.6ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係を理解し、文章の情報を整理する問題では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。	・物語文では、描写を基に人物の心情を読み取らせたり、表現の効果を考えさせたりしながら、物語を読む指導をしていく。 ・説明文を読み取る力は身に付いてきているが、目的を意識しながら、叙述に即して読み取っていく指導を引き続き行い、さらに力を伸ばしていく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.5	71.6	67.5
	農業や水産業	80.0	81.5	82.1
	工業生産	80.5	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	82.3	77.2	68.2
	日本の政治	75.4	73.1	77.9
	日本の歴史	65.4	62.0	65.8
観点別	知識・技能	77.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.0	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

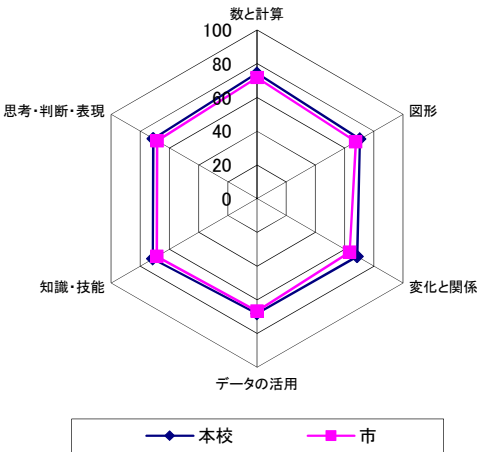
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	○本校平均正答率は73.5%で、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名についての問題では、本校の平均正答率は93.8%で、市の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ●韓国の国旗と位置についての問題では本校の平均正答率は69.2%で、市の平均正答率を3.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・全体的には市の平均を上回っている。引き続き、個に応じた指導を心掛けたり、ICTを有効活用したりして、さらなる学力向上に努めていく。 ・日本周囲の国の位置や国旗を指導をする際には、日常の国際情勢やニュース・出来事と結び付けながらフラッシュカード等で国名を提示したり、地図で位置を示したりして、児童の印象に残るような工夫をしていく。
農業や水産業	●本校平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。 ○地産地消の取り組みについての問題では、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 ●都道府県の位置と農産物の産地をもとに、地図を判断する問題では、市の平均正答率を5.6ポイント下回っている。	・グラフや表、地図などの資料から分かることを読み取ったり、分かったことから自分の考えを表現したりする学習を、今後も継続していく。 ・都道府県名と位置の学習において、地図帳や資料集を活用し、地図の凡例の見方を指導したり、フラッシュカードで児童に印象付けたりして、理解の定着を図る。
工業生産	○本校平均正答率は80.5%で、市の平均正答率を1.8ポイント上回っている。 ○日本の輸出品の資料を読み取る問題では、市の平均正答率を4.7ポイント上回っている。 ●自動車工場の作業工程についての理解を見る問題では、市の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	・自動車製造の工程の学習と共に、日本の工業生産の優れた技術や工業生産に関わる人々の工夫や努力に着目し、考え表現する学習を取り入れ、工業生産への興味・関心を高め、理解の定着を図る。 ・日本の主な鉱産資源の輸入品と輸入相手国について調べる学習を通して、外国との貿易が日本の工業生産を支える重要な役割を果たしていることに気付かせ、学習への興味・関心を高め、理解の定着を図る。
産業と情報との関わり	○本校平均正答率は82.3%で、市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注のシステムについて捉え、判断する問題は、正答率が72.3%である。これは、市の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ○メディアの特徴の理解に関する問題は、正答率が92.3%で、市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。	・インターネットの便利さを認識し、活用している児童は増えてきている。学級活動などで、インターネットの活用の仕方について話し合う活動を引き続き行うことで、理解を深めたい。 ・身の回りにあるメディアの特徴について、調べる活動を通して理解の定着を図る。
日本の政治	○本校平均正答率は75.4%で、市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ○日本国憲法に関する問題の正答率は、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ●基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する問題では、市の平均正答率を0.2ポイントとやや下回っている。	・日本国憲法の三原則が、生活の中でどのように生かされているのか、テレビや新聞記事等を活用し、興味をもって学ぶことができるように支援していく。 ・基本的人権については、身近にある具体的な例を挙げて学習することを通して、理解の定着を図る。
日本の歴史	○本校平均正答率は65.4%で、市の平均正答率を3.4ポイントと上回っている。 ○鎌倉時代、室町時代、江戸時代に関する問題の正答率は、市の平均を6～11ポイント上回っている。 ●大和朝廷や奈良時代の遣唐使に関する問題では、正答率が低く、市の平均正答率を約5ポイント下回っている。	・鎌倉時代以降の室町時代の文化や江戸幕府による大名支配などについて理解しているが、大和朝廷や、奈良時代についてもNHKの放送資料などを活用し、どのような出来事が起こったのか確認させていく。これからも、資料をもとに学習したことを文章やスライドなどで表す活動を取り入れることで、表現力を高め、日本の文化や歴史についての理解を深めていく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.4	71.8	76.2
	図形	70.5	67.7	67.8
	変化と関係	68.7	63.4	62.7
	データの活用	68.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	71.4	68.6	70.7
	思考・判断・表現	71.1	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

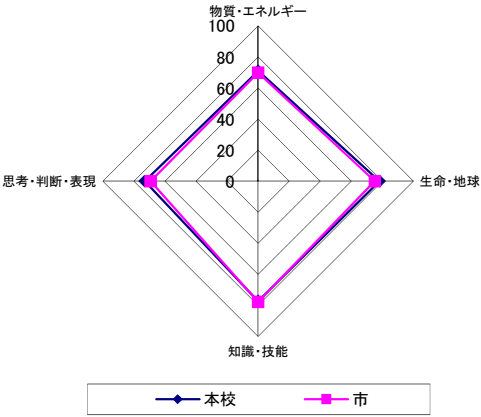
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は74.4%で、市の平均正答率を2.6ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の計算については計算技能の定着がみられるので、AIドリルなどを活用しながら基本的な計算練習を繰り返し、より正確な計算技能が身に付くよう指導していく。 ・分数の計算問題については、児童が計算技能を正しく把握できているか確認したり、分数を簡単な数に置き換えて考えさせたりして、数学的思考力を高めるようにする。
図形	○平均正答率は70.5%であり、市の平均正答率を2.8ポイント上回っている。 ○半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積の求め方を説明する記述問題では、市の平均正答率を5.3ポイント上回った。 ●合同な三角形の作図の問題では、市の平均正答率を5.2ポイント下回った。	・面積や体積の問題では、長方形の面積や直方体の体積の求め方を活用して、様々な図形の面積や体積が求められることを視覚的にイメージできるようにデジタル教材などで確認するとともに、体積や面積を求める学習を繰り返していく。 ・合同な図形の作図の学習では習熟度学習の充実や確認テストの実施などにより知識の定着を図る。
変化と関係	○平均正答率は68.7%であり、市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ○速度の単位を変換する問題の正答率は72.3%で、市の平均正答率を12.5ポイントと大きく上回っている。 ●単位量あたりの大きさの問題では、市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。	・道のり、速さ、時間の関係を理解し、速さと時間から道のりを求めるような場面設定をし、日常生活の中でも活用できるようにする。また、記述式の問題に取り組む機会を増やし、考え方や解答の仕方などに慣れるよう指導する。 ・単位量あたりの大きさについては、表や図から平均や割合を求めて考察する力が十分に身に付いていない。引き続き、表や図を用いて考える力が身に付くよう指導していく。
データの活用	○平均正答率は68.2%で、市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。 ○平均を求める問題では、2.8ポイント市の平均正答率を上回っている。 ●ヒストグラムを正しく読み取る問題では、市の平均正答率を3.2ポイント下回っている。	・グラフから読み取ったデータの特徴や傾向から考えたことを話し合う活動を充実させ、児童がグラフを活用することの良さを実感できるような指導を継続していく。 ・代表値の見方や求め方などを繰り返し指導するとともに、具体的な場面と関連付けて考えさせたり、日常生活にも活用できるようにしたりする機会を増やす。 ・AIドリルの活用により基本問題の定着を図る。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.0	69.9	67.8
	生命・地球	78.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	77.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	73.1	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は71.0%で、市平均正答率を1.1ポイント上回った。 ○「電磁石の性質を利用した道具で、空き缶をつり上げたり離したりできるように修正する」の設問の平均正答率は82.8%で、市平均を9.3ポイント上回った。 ○「アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を推測できる」の設問の平均正答率は82.8%で、市平均を4.7ポイント、全国平均を15ポイント上回った。 ●「同じ量の食塩とミョウバンを、水に加えたときの溶け方がわかる」の設問の平均正答率は62.5%で、市平均を9.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・見通しや方法も分からないまま観察・実験をしたがるため、事故や失敗を防ぐとともに、指導と配慮で実感を伴った理解を図るようにする。また、結果の考察による結論の導出を丁寧に行い、問題解決能力を育む。 ・物の溶け方について自分の考えをもち、溶ける量や様子に着目して友達と話し合うことや、水の温度や量などの条件を制御しながら自分の言葉で考えをまとめることなど、言語活動の充実を図る。 ・発電や蓄電、電気の変換についての理解を深められるよう、電気を利用している道具を調べたり、電気の効率的な利用の仕組みをプログラミングで体験的に学んだり、授業の展開を工夫する。
生命・地球	○本校の平均正答率は78.1%で、市平均正答率を3ポイント上回った。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」に関する設問のうち、呼吸の働きを記述する設問では市平均正答率より6.6ポイント高く、実験結果から部屋の換気の頻度分析では、市平均正答率より18.7ポイント高い。 ●「生物と環境」に関する設問では、食物連鎖についての理解が市平均正答率より3.7ポイント低い。	・植物のつくりについて、切った断面の観察や根から吸い込まれた水の行方の観察をもっと丁寧に行い知識の定着を図る。 ・「月と太陽」では月と太陽の位置関係のモデルを見て月の形を考えることができるよう、自然現象についての理解を深める学習場面を多く設定する。

宇都宮市立城東小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシートを活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	6年生は国語の漢字の読み書きについては市の平均正答率を下回っている。算数の数と計算では、市の平均正答率を上回っている。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達のをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の質問に対して、1、6年生は市の肯定的回答を上回っているが、2、3、4、5年生は肯定的回答が市の肯定的回答を下回っている。
児童が考える楽しさを味わい 進んで考える授業づくり・学び の「城東スタイル」	学校課題「考える楽しさを味わい、主体的に学ぶ子供の育成～思考力・判断力・表現力を育む『城東スタイル』による授業実践～」を通して児童が学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示し、見通しをもって自ら課題に取り組んだり友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対して、ほとんどの学年で市の肯定的回答を下回っている。算数、社会、理科で、「思考・判断・表現」の観点において市の平均正答率を上回っている。国語においては0.8ポイント下回っているが、今後も児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりをしていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語では、「言語文化に関する事項」の正答率が市の平均よりやや低かった。学年の配当漢字を文の中で正しく使えるよう今後は文章の中で漢字を書く機会を意図的に設けることで「漢字」や「作文」の技能を高めていく。算数では、「知識・技能」の観点で全国、県の正答率を上回っている。「数と計算」の正答率は、全国、県を上回っており、計算の基礎技能が定着しているといえる。継続して「漢字・計算検定」に取り組んできた結果と考えられる。

・今後も各教科等でめあてやねらいを明確にして、児童が学習した内容を自分の知識と関連付けて考えたり、友達と学び合って考えを深め合ったりし、思考したことやその過程を説明する活動が充実する授業づくりを目指す。授業のまとめや振り返りにおいては、学習したことを見つめ直し、目的を意識して自分の考えを表現できる力を育成していく。

・学習に関する質問では、1人1台端末の活用が増えたが、「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」に対する肯定的回答は、3～6年生すべての学年において市の肯定的回答を下回っている。本校の特色であるノートによるまとめだけでなく、今後はパソコンを使ったまとめについても指導し、最終的には児童がまとめ方を選択できるようにしていく。

・家庭での学習に関する質問では、「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」に対する肯定的回答は、3～6年生において市の肯定的回答を下回っている。「じゅ業で習ったことを、その日のうちにふく習している」に対する肯定的回答も、3～6年生は市の肯定的回答を下回っている。今後は自主学習ノートを活用した指導を充実させ、テストだけでなく、間違えた問題をやり直したり、習ったことを復習したりすることが習慣化するようにしていく。